

採 血 を 受 け ら れ る 患 者 さ ん へ

採血の必要性と危険性について

採血は病気の診断や病状の把握をするために必要な医療行為です。血管(静脈)に針を刺し、血液を必要最低量採取し検査いたします。医療行為の中では基本的に安全性の高い手技ですが、まれに合併症が起こることがあります。

必要性と危険性をご了承の上、採血を受けられるようお願い申し上げます。

採血の合併症について

○止血困難・皮下血腫(青あざ)

穿刺時や採血後止血が不十分な場合に起こります。十分な圧迫止血(5分)をお願いいたします。

○アレルギー反応・過敏症

アルコール消毒や採血時に使用するゴムの駆血帯(ラテックス)などでかゆみや発疹などのアレルギー症状が出ることがあります。過去にアレルギー症状がでた経験がある方はお申し出ください。

○神経損傷

採血時に穿刺した針によって、指先のしびれやいつもとは違う強い痛みなどが持続することがあります。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。このような症状が現れたら直ちに採血を終了いたしますのでお申し出ください。

○血管迷走神経反射

採血時や採血後(多くは直後)に一時的に血圧が下がり、気分不快・冷や汗・めまい(たちくらみ)意識消失などが起こります。この場合ベッドに寝ていただくなどの対応をいたします。

気分が悪くなった方はお申し出ください。

患者さんへのお願い

○ご本人確認

「患者間違い防止」のため、ご自身の生年月日・姓名をおっしゃっていただいています。

○以下に該当する方は、お申し出ください。

- ・採血時に気分が悪くなったことがある方
- ・アルコール消毒やゴムの駆血帯(ラテックス)などアレルギーのある方
- ・血液透析中の方
- ・乳房切除手術を受けられた方
- ・血液をさらさらにする薬(ワルファリンなど)を服用中の方
- ・重症アトピー性皮膚炎や火傷がある、麻痺がある方
- ・その他、採血に関してのご希望や不安のある方

当採血室では、国家資格を有する「臨床検査技師」が採血を担当しております。

安全・安心な医療の提供を行うため、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

東京慈恵会医大葛飾医療センター中央検査部 採血室